



主な展示製品

- CT
「IQon スペクトラルCT」
- 血管造影X線診断装置
「Allura Centron」
- 移動式外科用X線システム
「BV Vectra」
- MRI
「Ingenia」 「Multiva」
- 超音波診断装置
「EPIQ」 「Affiniti」

テーマ innovation you

ITEM初日、ブースにおいて本年4月に国内発売した新製品の発表会(除幕式)を開催。会場ではそれらのニューモデル3機器に来場者の関心と質問が集中していた。

CT

「IQon スペクトラルCT」

2層検出器を持つマルチスライスCT「IQon スペクトラルCT」をITEM初公開。同装置は2014年11月にFDA認定を受けており、本年4月11日に国内発売となった。

同装置に搭載する2層検出器は、Yttrium(第1層)とGOS(第2層)で構成される。同構造により連続X線エネルギーを高低2種類のエネルギーとして最適分光できるため、1回のスキャンで120kVp画像に加えスペクトラルデータが取得できる。スペクトラルCTのための特別な操作手順や特殊処理は不要であり、一般的なCTと同様の運用が可能。また同装置には、同社のハイブリッド逐次近似応用画像再構成「iDose4」や金属アーチファクト低減画像再構成「O-MAR」等を標準搭載する。



IQon スペクトラルCT

血管造影X線診断装置

「Allura Centron」

血管造影X線診断装置「Allura」の最新機種で、4月14日に国内販売を開始。同シリーズの最上位機種と同じ15インチFPDを搭載し、心疾患領域や電気生理検査領域のインターベンション手技を主な臨床応用として設計されているが、頭部から全身をフルカバレージできるという。

同装置の特長としては、『XperSwing(多軌道回転撮影)』と呼ばれるCアーム動作が挙げられる。Cアームの2軸同時回転により被検者を中心とした3次元のアーチ動作が可能となり、X線照射回数を抑えつつ多方向からの冠動脈画像情報が取得できる。なお、多軌道回転時のCアームの衝突回避を目的に、左右の冠動脈それぞれに専用の起動設定プロトコルを用意。C



Allura Centron

アームに対する被検者の位置を検知して衝突を防止する非接触式安全機構も採用されている。

移動式外科用X線システム

「BV Vectra」

4月6日に国内発売されたばかりの移動式外科用X線システムで、キャスター付きCアームガントリーと観察専用モニター付きビューステーションでシステムを構成。外傷、脊椎、ペインマネジメントなど整形外科領域に特化した設計となっており、100万画素のイメージングチェーンにより骨梁レベルまで高精細に描出できる空間分解能を持つ。それゆえ複雑な螺旋骨折や粉碎骨折などの画像描出に適しているが、全身領域に応用が可能。

同装置の特長は、メタルアーチファクトの軽減機能やボディースマート機能など、整形外科手術を高度に支援する機能の標準装備にある。50KHU/分の高冷却率を実現したX線管装置やパルス透視モード等の低線量設定機能の採用が、より少ないX線量で高画質の



BV Vectra

透視・撮影を可能にする。また、Cアームは奥行き66cmを確保し、最大125度の回転が可能のため、稼働域の広さや位置決め等の自由度の高さも特長として挙げられる。